

やまがた

元氣

農の風

NO.39

エネルギーな担い手

山形県真室川町

たかはし きょうへい

高橋 恭平さん

米農家を継承し、新たに野菜部門を開拓
「もがみねぎ」産地を支える若きリーダー

真室川町

経営のきっかけ・こだわり・思いをお聞かせください。

山形県立農業大学校（当時）を卒業後、祖父から農地を引き継ぎ親元就農しました。祖父の代までは、水稻と畜産のみの経営でしたが、農業大学校で野菜経営学科を専攻していたこともあり、新たに自分の部門としてねぎ栽培を導入しました。平成25年には最上広域野菜振興協議会ねぎ部会に「若手ねぎ研究会」が結成され入会、令和5年度から代表に就任しました。

ねぎの他に、水稻9ha、牧草4.5ha、ニラ15a、繁殖牛5頭の複合経営を行っているため、稲刈り前に収穫できるねぎの品種比較試験を繰り返し、早生系品種である「項羽（こうう）」「関羽（かんう）」に辿り着きました。

ねぎの栽培面積は15aと大きくはないですが、繁殖牛も飼養しているため、自家製の完熟堆肥を使用した環境にやさしい施肥体系にこだわり、単収は最上地域でもトップクラスを維持しています。今後も持続可能な農業を継続し、単収の安定に取り組んでいきたいです。



「若手ねぎ研究会」の会長を務める
高橋 恭平さん

農業の魅力について
お聞かせください。

いつでも新鮮で美味しい作物を食べられることが魅力です。稲の生育状態をみて、肥料を構成する窒素の含有量を少なくしたり、ねぎで追肥型の栽培を導入してみたりと、日々試行錯誤しながら取り組むことで、農作物の収量増などの成果に結びついた時にやりがいを感じます。

また、農業を通して市町村の枠を超えた広域的な人との繋がりもあり、これからも協力して産地を盛り上げていきたいです。



埼玉県深谷市で開催された
「全国ねぎサミット2023in農業王国ふかや」の様子。

(写真提供：高橋恭平さん)



飼養している繁殖牛

今後の経営、目標や夢、
将来展望をお聞かせください。

将来的には委託される農地も増えていくことが予想されるため、効率的に農作業を行うことができる農業用ドローンやGPS付自動運転田植機を積極的に活用したスマート農業に力を入れて取り組みたいです。

農薬や肥料、品種についても、前例踏襲ではなく、新技術の実証を行ってみて、良いと思ったものは柔軟に取り入れていきたいです。



間もなく収穫を迎えるねぎ

GPS付自動運転田植機
(写真提供：高橋恭平さん)

東北農政局 山形県拠点 地方参事官室

TEL:023-622-7231

